

大野城市環境基本計画・地方公共団体実行計画（区域施策編） 2025(令和7)年度年次報告書について

大野城市環境基本計画・地方公共団体実行計画（区域施策編）（以下「計画」という。）年次報告書は、計画に掲げる施策の進捗状況と市域内の温室効果ガス排出状況について、取りまとめたものです。

《計画に定める3つの目標と達成状況》

計画では、本市が目指す姿を「市民総ぐるみでつくる希望にあふれた脱炭素のまち」とし、その実現のために、2030(令和12)年度を目標年次とした3つの大きな目標を定めています。

① 市域の温室効果ガス排出量

目標：2013(平成25)年度比で46%以上削減

市域から排出された温室効果ガスの総排出量(※1)は44万6千トン-CO₂で、基準年度である2013(平成25)年度比で22.3%の減少、前年度に対しては5.2%減少しました。

(※1) 把握できる総排出量の直近の年度は、2022(令和4)年度となります。

■温室効果ガス排出量の推移（単位：万トン-CO₂）



まとめ

目標達成率は現時点で48.3%です。

目標達成に向けては、今までの削減量以上の削減が必要となり、これまでに以上に省エネ意識の更なる向上や脱炭素行動の実践、事業所の脱炭素経営の普及拡大をはじめとして、市民総ぐるみで削減に取り組んでいく必要があります。

② ごみの排出量（もえるごみ1日あたりの排出量）

目標：2013(平成25)年度比で**10%以上削減**（目標値は、**11.3%削減**）

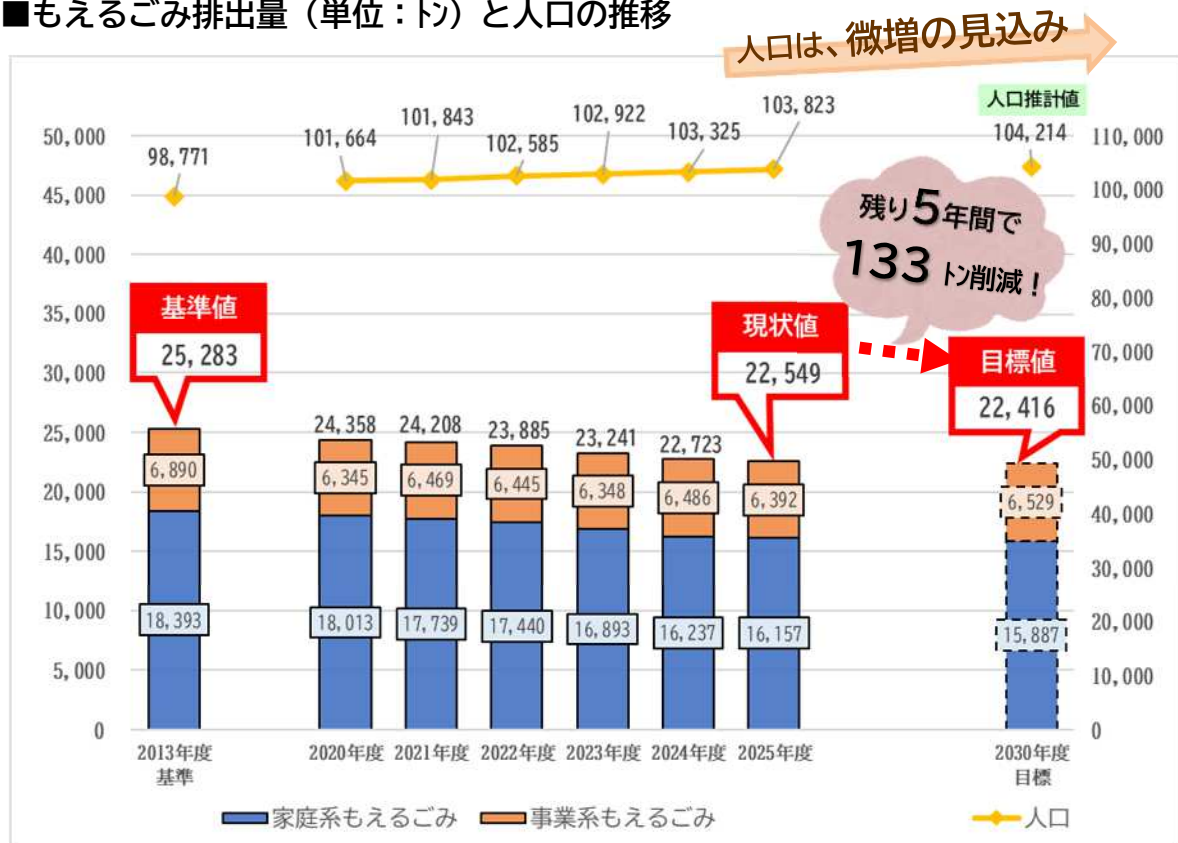
2025(令和7)年度のもえるごみの1日あたりの排出量は61.78トンとなり、基準年度である2013(平成25)年度に対して**10.8%減少**となりました。

■もえるごみ排出量と1日あたりの排出量

	計画で定められた目標値		2025(令和7)年度実績		
	2013年度 (基準年)	2030年度 (目標値)	実績値	2013年度(基準年)比	
もえるごみ排出量	25,283	22,416	22,549	▲ 2,734	▲ 10.8 %
1日あたり	69.27	61.41	61.78	▲ 7.49	▲ 10.8 %

単位：トン（表中に表記があるものを除く）

■もえるごみ排出量（単位：トン）と人口の推移



まとめ

目標値に対する達成率は現時点で 95.3%です。

家庭から排出されるごみは、人口が増加しているにもかかわらず減少しており、市民が日常生活の中でごみ減量を意識した行動の成果だと考えられます。

人口は今後も微増傾向との推計がされており、これからもごみの減少傾向を維持できるように、分別の徹底や廃棄抑止に向けた行動の見直しを図る必要があります。

③ 二酸化炭素吸収源

目標：森林・緑地の二酸化炭素吸収量を2,500トン-CO₂以上

2025(令和7)年度の二酸化炭素吸収量は、3,237トン-CO₂(※1)となりました。

■森林等による二酸化炭素吸収量の実績と2030年度目標

対象区域	計画で定められた目標値			2025(令和7) 年度実績
	2019年度 吸収量の実績	2030年度 吸収量の見込み	2030年度の目標	
大野城市の 森林及び緑地	3,276トン-CO ₂	2,419トン-CO ₂	2,500トン-CO ₂ 以上	3,237トン-CO ₂ (※1)
【参考】 国内の森林	4,590万トン- CO ₂	—	3,800万トン-CO ₂ (農林水産省目標)	

(※1)二酸化炭素吸収量の算定は、5年間を1期とした二酸化炭素蓄積量の算定となるため、直近の算定である2024(令和6)年度の算定量を2025(令和7)年度実績としています。

まとめ

現時点での二酸化炭素吸収量は目標値を上回る実績となっていますが、本市では樹齢とともに成長が穏やかになった樹木(二酸化炭素を吸収する能力が低下した樹木)が多いため、今後、二酸化炭素吸収量が減少していくと推計されています。

そのため、二酸化炭素吸収量を維持できるよう、森林経営計画に基づき、主伐・植林を確実に実施していく必要があります。